

「分散型エネルギーリソースの更なる活用に向けたフィージビリティスタディ」の概要

1. 事業概要

本事業では、再生可能エネルギーの更なる導入を目的とし、海外における DER の管理・制御方式や関連するサービスを調査し、それらを我が国に適用するための課題とその効果を検討・整理します。

具体的な実施内容は下記のとおりです。

- ・ 国内調査
DER の普及拡大が電力系統運用に及ぼしうる影響・課題や、それに対する DER 活用の取り組みを整理し、DER の更なる活用可能性を調査する。
- ・ ソリューション・システム調査
DER 活用に向けて有効と考えられるソリューション・システムの調査を行い、国内での開発に向けた課題を整理する。
- ・ 海外調査
DER 活用の先進事例を有する国・地域について、DER を活用する実証事業や実ビジネスの事例を調査する。
- ・ 必要な技術開発項目の整理
上記を踏まえて、国内における DER の更なる活用に向けて有効と思われるユースケースを整理する。また、その実現に必要な技術・ソリューションを整理し、実現に向けたスケジュール等を検討する。

2. 期間

2020年7月～2021年3月（予定）

3. 実施体制

株式会社三菱総合研究所（幹事法人）

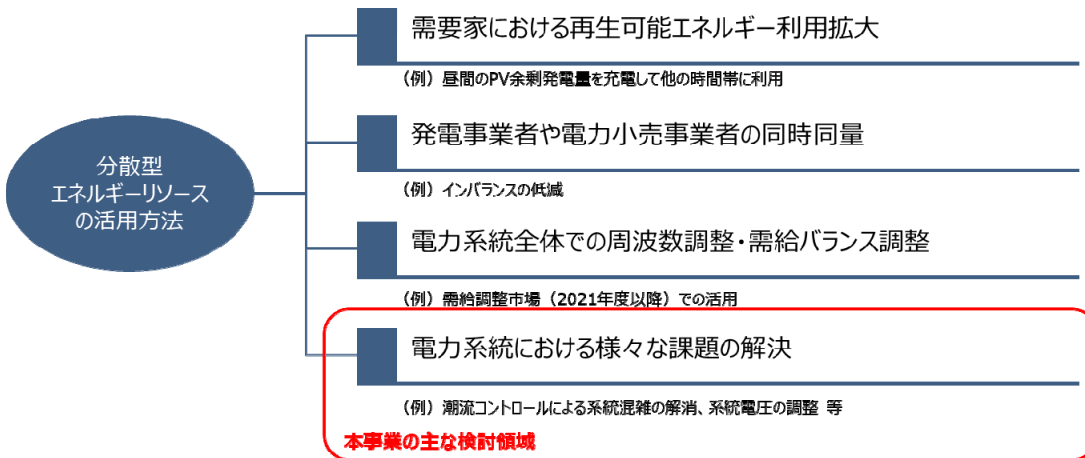
関西電力送配電株式会社

東京電力パワーグリッド株式会社

学校法人早稲田大学

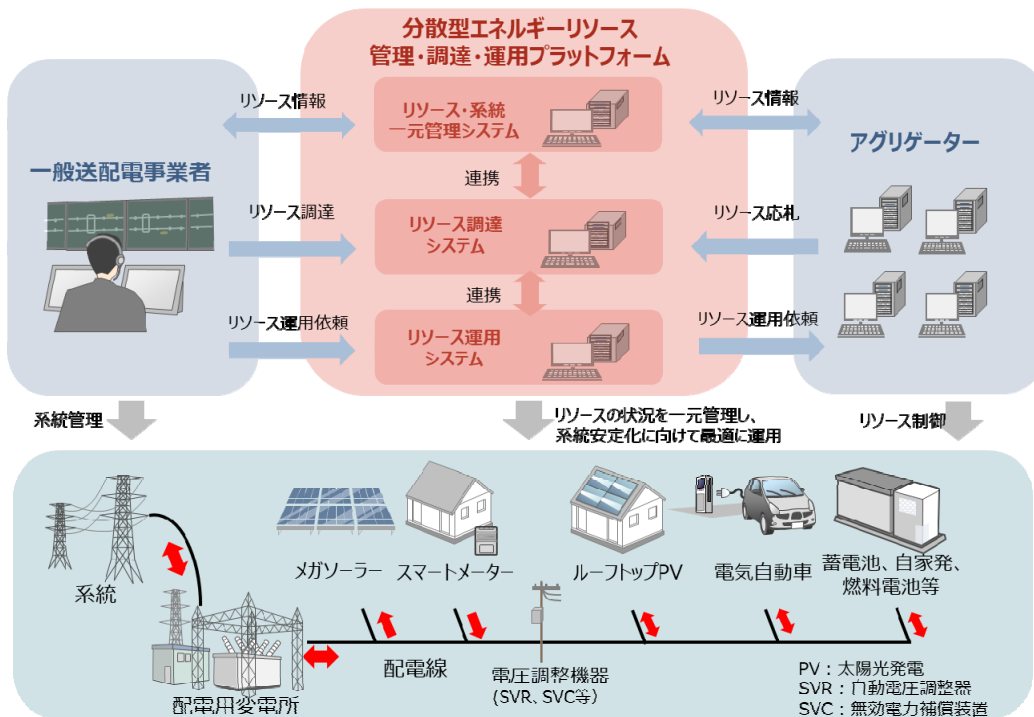
<参考：本事業での主な検討領域>

本事業では、蓄電池や自家発電設備等の分散型エネルギーリソースを積極的に制御することで、再生可能エネルギーの普及拡大に資する系統課題の解決（潮流コントロールによる系統混雑の解消、系統電圧の調整等）ができるのかを調査します。



<参考：分散型エネルギーリソースの活用イメージ>

分散型エネルギーリソースを一元的に管理、調達、運用するプラットフォームを構築し、一般送配電事業者やアグリゲーター（注）と連携しながら、電力系統の運用と協調し分散型エネルギーリソースを最適に運用。



（注）アグリゲーター：分散型エネルギーリソースを統合制御し、さまざまなエネルギーサービスを提供する事業者